

2009 年度自己点検・評価報告書等の公表にあたって

学 長 山 本 英 夫

このたび『2009 年度自己点検・評価報告書』を公表する運びとなりました。公表にあたり、今年度の経過等について一言述べておきます。

18 歳人口の減少による大学全入時代の到来に加え、二極化の傾向も強まり、学生募集を取り巻くわが国の状況は年々厳しさを増しています。

本学においても、2008 年度入試の志願数は、公募推薦入試が昨年度の 92%、大学入試センター試験利用入試および一般入試はともに約 95%で、昨年度比では 5%の減少となりました。少子化の時代とはいえ、本学としては、連続して志願者が減少したことを真摯に受け止めなければなりません。

そのような背景を踏まえ、本年の自己点検・評価報告書では、各学部・研究科が定めるアドミッションポリシーと、教育内容・方法（カリキュラムポリシー）との整合性、さらに具体的な入試制度等について点検・評価し、それを広く学外に公表することに主眼を置いています。

また、2011（平成 23）年度には、2007 年度認証評価の際に付された助言に対する「改善報告書」を、大学基準協会に提出する予定です。取り組み内容の性質上、今回の公表対象としていませんが、認証評価時の助言等に対する改善進捗状況の把握、諸課題への対応も鋭意進めて参りました。

最後になりますが、日頃からの本学へのご支援に感謝申し上げますとともに、公表によりこの自己点検・評価活動が本学の改善・改革にとって大きな糧となるよう、本報告書に対し、皆様からの貴重な御意見・御指摘を賜りますよう、心よりお願い申し上げます次第です。

2010 年 3 月